

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

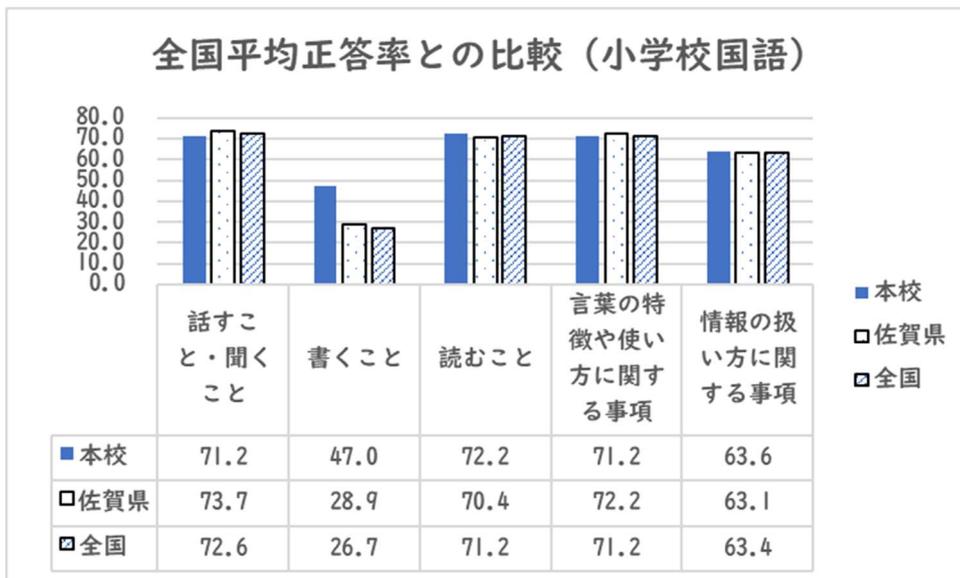
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

I 国 語



(1) 結 果

国語科全体の正答率（69％）では、全国平均（67.2％）より若干上回った結果でした。

(2) 成果と課題

今回の調査で、学習指導要領の内容の3つの領域の中で「書くこと」は全国平均より大きく上回りました。昨年度まで「書くこと」には課題がありました。そこで、2つ以上の条件をもとに文章を書く機会を増やすなど、条件を設定して表現させる取組等を継続して行ってきた成果が出ていると言えます。引き続き、条件にあった書く力の育成や筆者の意図をふまえ文の構成を読み取っていく力を育成していきたいと思えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○一人で考える時間を大切にします。意図的な対話活動の場を設定し、伝えたり聞いたりしながら相手と自分の考えを比べ、問い直しをしながら、自分の考えをもつことができるようにします。また、音声言語での交流を文字言語でまとめるなど、書く機会を意識して増やすことで、書く力の向上をめざします。

○読み取ったことに対する考えを自分で構成して文章化する授業を仕組んでいます。

【ご家庭では】

○すべての学年において音読の宿題を出しています。＊正確・明晰・流暢（正しく・はっきり・すらすら）読むことをめざします。

音読の「読む・話す・聞く」という複数の作業により、国語に限らず学習の土台として

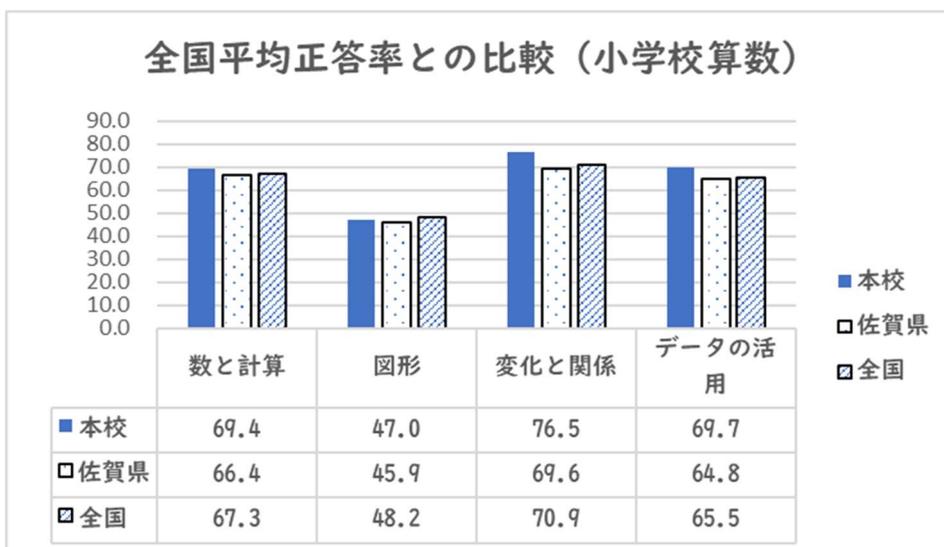
- ・脳の活性化

- ・語彙力、読解力、理解力の向上

につながります。是非、口をあけて、正しく・はっきり・すらすら音読ができているか見てください。継続は力なりです。やる気が高まるように、よくできていることは褒めてください。

～\*文部科学省 ホームページ 参照～

## 2 算数



### (1) 結果

算数科全体の正答率（65％）では、全国平均（62.5％）と若干上回った結果でした。「変化と関係」の領域、「データの活用」領域で全国平均より大きく上回りました。問題形式においては、記述式において、本校51.1％、全国平均47.3％と3.8ポイント上回った結果でした。

### (2) 成果と課題

「変化と関係」「データの活用」においては、すべての問題において全国平均を上回った結果でした。日頃の授業において、図、式、言葉の3点セットを活用し、筋道を立てて考えたり、自分の考えたことを相手に伝えたり、対話活動を意識して取り入れている成果とと思われます。

図形領域において、テープ2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ問題の正答率が本校は54.5％と、全国平均59.8％より低い結果でした。算数用語や公式の意味を理解し、活用できるようにすることが課題です。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 基礎・基本の計算力は習熟の成果が出てきているので、図、式、言葉の3点セットを活用して説明させ、思考力・判断力・表現力の向上をめざします。また、自分でもう一度確かめたり、友達と比べたりしながら、自分の考えがそれでいいのか問い直す時間を大切にし、自分の考えが深まるようにします。
- 算数用語について言葉で説明させ、その意味や定義をしっかりと理解することをめざします。定義を理解することで、問題を解く際の思考の根拠となるようにします。

#### 【ご家庭では】

- 生活の中で、時刻、調理をする際の分量等、学校の学習内容と関連付けて考えることができる場面が様々あります。お子さんのノートや、学習プリント、テストに目を通して学習内容について話題にしてください。話題にしたことを、自主学習としてノートに書くと、思考が整理され、より深い学びにつながります。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果 <<生活習慣・挑戦心・規範意識について>>

調査項目	本校 %	全国平均 %
①朝食を毎日食べていますか。	73.9%	83.7%
②毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.8%	38.1%
③毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	58.0%	55.1%
④学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) A「2時間以上」 B「1時間以上、2時間より少ない」 C「30分以上、1時間より少ない」 D「全くしない」	A 15.9% B 8.7% C 11.6% D 36.2%	A 7.6% B 10.9% C 18.8% D 24.5%
⑥自分にはよいところがあると思いますか。	34.8%	42.6%
⑦人が困っているときは、進んで助けていますか。	59.4%	45.6%
⑧人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	78.3%	75.3%
⑨いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.4%	82.6%

朝食・就寝については全国平均を下回っています。平日において2時間以上読書をする児童と全く読書しない児童と二極化している傾向があります。「自分はよいところがある」と感じている児童の割合は少ないですが、人のために役に立ちたいという貢献意欲は高いです。そのよさを児童の自己肯定感につなげることができるように「きらり発見活動」をさらに活性化していきたいと思います。

##### <<家庭学習の様子>>

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.2	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	11.6%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	13.0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	23.2%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	36.2%	26.9%
「30分より少ない」	11.6%	11.4%
「全くしない」	4.3%	4.6%

家庭学習については約25%の児童が2時間以上家庭学習に取り組むことができています。しかし、1時間未満の児童が半数います。個人差が見られるので、家庭学習の大切さを考えさせて家庭学習が習慣化するよう指導をしていきます。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 「家庭学習のあいことば」を子ども達に紹介したり、掲示したりし、自分から進んで家庭学習ができるように啓発しています。
- 学習時間、睡眠時間、ゲームの時間等、生活習慣について「家庭学習がんばろう週間」などを利用し、自分の実態を振り返ったり、友達の時間の使い方や学習内容と比べたりしながら、自己の調整力を高めることをめざします。
- 現在取り組んでいる「きらり発見活動」を継続し、子ども達の自己肯定感を高め、学びたい、知りたい、挑戦したいというやる気を促します。学校行事等で子ども達が活躍できる場をつくり、自分のがんばりを実感できるようにしていきます。

###### 【ご家庭では】

- お子さんと時間の使い方について話し合いをし、テレビ視聴、ゲームをする時間の約束をしてください。学校において、いきいきと学ぶことができるような環境づくりや言葉かけをよろしくお願ひします。家庭学習のがんばりを学校で紹介したいと思ひますので、是非教えてください。